

筑波山に登る歌一首 并せて短歌

一七五七番

草枕 旅の憂へを 慰もる 事もありやと

筑波嶺に 登りて見れば 尾花散る 師付の田居

に 雁がねも 寒く来鳴きぬ 新治の 鳥羽の

淡海も 秋風に 白波立ちぬ 筑波嶺の 良けく

を見れば 長き日に 思ひ積み来し 憂へは止み

ぬ

反歌

一七五八番

筑波嶺の 裾廻の田居に 秋田刈る 妹がり遣ら

む 黄葉手折らな